第39回筑波大学
オリエンテーリング大会
コース解説

・はじめに

今回のテレインは地形的特徴が少ないという点で他の片斜面テレインと一線を画しています。一方で植生は走行が可能なエリアが広い上、変化に富んでいます。さらに穴や岩が散在または集中しているため、決して単調なテレインではありません。このようなテレイン特性を生かしつつ、それぞれのクラスの要求をみたすようなテクニカルかつスピーディーで、ちょっとチャレンジングなコースを設定しました。楽しんでいただけたでしょうか？　今回はいくつかのレッグを取り上げねらいと予想されるルートを解説します。

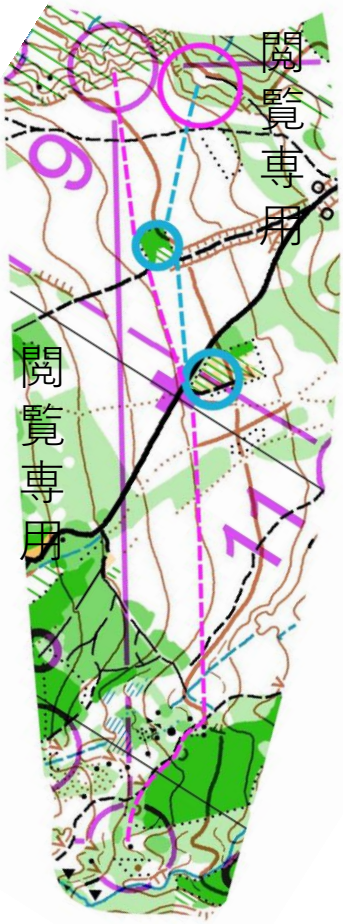
コース設定者　小牧弘季

M21A1/M21A2/M35A/OAL 2→3
（W21A　3→4）

上位クラスにおける最初の難関レッグ。見通しが悪い中での直進が求められる。植生界の角からの直進は短いが、難しい。傾斜変換にエイミングオフし、尾根線上の岩からのアタックはより確実。もちろん道を回っていくのも最速ではないものの選択肢の一つ。ちなみに試走で増澤選手は全部直進していた。Cヤブも十分通行できるため、技術に自信があるなら選択肢の一つになりえるかもしれない。

M21A1（尾根）
M21A2（沢）　8→9
M35A(沢）7→8

一気に見通しの良いエリアに突入する。スピードを出さないとうまくいってもミスタイムを計上してしまうだろう。とはいえ、明瞭なチェックポイント（植生界付きのヤブ）があるためシンプルなプランが立てられるはず。コントロール位置はこのテレインの中では珍しく地形が切れ込んでいる場所に設置されているためアタックは意識を切り替えるべき。また、脱出は切通しを通るよりヤブを巻いた方が早いと思われる。



M21A1 /W21A（岩）/ M21A2(沢）10→11
M35A/OAL(岩）　9→10　M20A（岩）8→9

ルートチョイスのあるレッグ。アタックポイントはどのルートももき裂と小径の交点が適当か。道を引っ張るピンクルートが想定では早いと考えられる。しかしながら直進ルート（青）、立ち禁テープ沿いを走るルート（灰色）を選択してもあまり差がつかないと考えられ、、自分にとって最適なルート選択が重要。直進する際はDヤブに入らないよう注意。

W21AS/W50A/M65A/OAS　2→3
W65A　3→4

ヤブをすり抜ける難易度の高いレッグ。道に出た後、植生界の間のＢヤブを抜け、Aヤブに入り、再び植生界に向けアタックするのがベストルート。藪の中での我慢強くナビゲーションが求められる。

M21A1 /M21A2
14→15

下るだけのレッグに見えるが、コントロール位置が難しいため道のどこに出るのか分かっている必要がある。直進して大きな沢に入るルート（ピンク）は岩がけのある尾根を認識しづらく、北の尾根に入ってしまうリスクがある。灰色ルートは藪に沿って植生界を見つつ、Bヤブの間（ここは明瞭）を通って南にエイミングオフすると明確な沢にでる。このルートが最もアタックが簡単であると思われる。

こぼれ話

今回のコースは前半は藪の中のコンピ、後半はロングレッグが続く傾向にあります。意図的にそうしたというよりはテレイン特性によるもので、このテレインの東半分は民有林、西半分は国有林です。管理組織が異なるため林の手入れをするタイミングがずれるようで、あるとき救護所付近の平らなエリアと微地形のある大きな沢のヤブが消滅しました。そのため、テレインの東側は見通しの良い森が広がるエリアになりました。特徴物が少ないということもあり、後半のAこのエリアは長めのレッグを組み、コントロール位置は難しく設定しました。スピードを出して走れるゆえ、後半は体力的に少しきつかったかもしれませんね。